

2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2020年11月11日

上場会社名 ソフトマックス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3671 URL http://www.s-max.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役会長兼社長(氏名) 野村 俊郎
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役管理本部担当(氏名) 濱平 耕一 (TEL) (099) 226-1222
 四半期報告書提出予定日 2020年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	2,725	△4.7	189	△28.3	220	△21.4	150	△13.6
2019年12月期第3四半期	2,860	27.0	263	238.8	281	192.6	173	183.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年12月期第3四半期	25.19		—					
2019年12月期第3四半期	29.16		—					

(注) 当社は、2019年7月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株あたり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	5,225	2,074	39.7
2019年12月期	5,642	1,996	35.4

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 2,074百万円 2019年12月期 1,996百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2020年12月期	—	0.00	—		
2020年12月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,450	2.7	420	3.5	466	8.7	284	5.1	47.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

業績予想につきましては、添付資料の4ページに記載した「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2020年12月期3Q	5,959,500株	2019年12月期	5,959,500株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2020年12月期3Q	311株	2019年12月期	264株
-------------	------	-----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2020年12月期3Q	5,959,207株	2019年12月期3Q	5,959,257株
-------------	------------	-------------	------------

(注) 当社は、2019年7月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等に関する説明、その他特記事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、実際の業績等は、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページに記載した「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、長期化する米中貿易摩擦など世界経済減速に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い経済活動が停滞し、景況感はかつてない厳しさとなっており、先行きも極めて不透明な状況が続いております。

医療業界での新型コロナウイルス感染症拡大の影響はより大きく、わが国の医療制度、個々の医療機関の運営においても、早急な対応を迫られております。その中でも、医療分野のオンライン化の整備が喫緊の課題となっており、7月に閣議決定された「骨太方針2020」においても、また、9月に発足した新政権においても、医療分野のデジタル化推進が最重要テーマの一つとなっております。一方、団塊の世代が75歳以上になる2025年に向け、安全・安心で質の高い医療が受けられる体制構築、医療費抑制のための様々な施策は継続して実行されております。2020年度政府予算では、「健康寿命延伸等に向けた保健・医療・介護の充実」をテーマに掲げ、「地域包括ケアシステムの構築」などの施策に重点的に予算配分がなされております。その中で、2019年度予算において初めて創設された「医療情報化支援基金」に関連し、本年3月に厚生労働省より「オンライン資格確認の導入」をテーマとした来年3月の開始に向けた補助金を含む支援策の内容が公表されております。また、本年4月の診療報酬改定においては、「医療従事者の負担軽減」、「医師等の働き方改革の推進」などが新たに重点課題として取り上げられています。これらの施策の実現には、その基盤となる医療情報システムが必要不可欠であり、同システムの開発を手掛けるベンダー各社の役割は益々重要なものとなっております。

このような状況の下、当社では、コロナ禍という医療機関側の状況に配慮しつつ、Web型電子カルテシステムを中心に、同システムの導入率の低い中小規模病院への拡販を展開するとともに、一方では、地域医療の中核を担う有力病院グループへのクラウド型システム導入のアプローチも進めてまいりました。また、開発・技術部門では、システム機能の充実と信頼性の確保という方針を基に、医療分野のデジタル化・DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応したソリューションとの連携、システムの開発、機能強化、バージョンアップなどに取り組むとともに、顧客医療機関に対するサポート体制の強化、顧客満足度の向上に努めてまいりました。さらには、営業、開発・技術両面での業容拡大を睨み、人材の採用、他社との業務提携などを推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染症拡大による医療機関の厳しい経営環境下、院内での感染防止対策として非接触型の医療情報システムに対するニーズがあり、受注高は増加したものの医療機関の入館規制等によりシステムソフトウェアの導入の遅延が発生したため、売上高は2,725,603千円（前年同四半期比4.7%減）となり、利益ベースでは、売上高の減少に伴い、営業利益189,177千円（前年同四半期比28.3%減）、経常利益220,925千円（前年同四半期比21.4%減）、四半期純利益150,127千円（前年同四半期比13.6%減）となりました。

また、当第3四半期累計期間の受注状況は、受注高2,604,337千円（前年同四半期比9.4%増）、受注残高2,111,120千円（前年同四半期比26.6%増）となりました。

なお、セグメント別の業績につきましては、システム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりますが、受注実績及び販売実績を種類別に示すと、次のとおりであります。

①受注実績

種類別	当第3四半期累計期間 (自 2020年 1月 1日 至 2020年 9月30日)			
	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
システムソフトウェア	1,739,006	105.5	1,534,929	128.2
ハードウェア	865,330	118.1	576,190	122.4
合計	2,604,337	109.4	2,111,120	126.6

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②販売実績

種類別	当第3四半期累計期間 (自 2020年 1月 1日 至 2020年 9月30日)	前年同四半期比 (%)
	販売高 (千円)	
システムソフトウェア	1,213,906	87.3
ハードウェア	622,589	100.3
保守サービス等	889,107	104.8
合計	2,725,603	95.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ、流動資産が791,584千円減少、固定資産が374,550千円増加した結果、417,033千円減少し、5,225,148千円となりました。流動資産の減少は、主に仕掛品が182,329千円増加した一方で、現金及び預金が336,725千円、受取手形及び売掛金が630,015千円減少したことなどによるものです。一方、固定資産の増加は、有形固定資産が371,801千円増加したことなどによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ、流動負債が115,172千円増加、固定負債が610,785千円減少した結果、495,613千円減少し、3,150,345千円となりました。流動負債の増加は、主に支払手形及び買掛金が492,841千円、1年内返済予定の長期借入金が250,000千円減少したものの、短期借入金が950,000千円増加したことなどによるものです。一方、固定負債の減少は、長期借入金が620,655千円減少したことなどによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ、78,579千円増加し、2,074,803千円となりました。当第3四半期累計期間において、資本金及び資本剰余金の増減はなく、要因は主に利益剰余金の増加であり、四半期純利益150,127千円の計上、第47期利益剰余金の配当金71,510千円の支払いによるものです。なお、自己資本比率は39.7%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見通せる時期までは、当面厳しい環境が継続していくものと思われます。とりわけ、医療業界におきましては、地域の医療体制の維持、医療従事者の安全確保が喫緊の課題となっております。また、今回のコロナ禍を契機として、国の主要施策としてオンライン診療を始めとした医療分野のデジタル化、DXを推進するという方針が打ち出されております。当社は、医療情報システムを取り扱う会社として、国のデジタル化推進方針に基づく医療政策、また各都道府県の掲げる地域医療構想に対応した医療のICT化への取り組みを進め、更なる医療への貢献を目指してまいります。

このような事業環境の下、当第3四半期累計期間においては、2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」に記載のとおり、医療機関の入館規制等によりシステムソフトウェアの導入の遅延が一部発生しましたが、当期中には導入が完了し、売上計上となる見込です。よって、現時点での2020年12月期の通期業績予想は、2020年2月14日に公表いたしました数値を据え置いております。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の予測は大変困難であり、顧客である医療機関が当感染症の対策を優先させる方針をとった場合、あるいは院内への入館規制等により、当社の業績に影響を与え、通期の業績予想について修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおりますので、実際の業績等は今後の業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,830,798	2,494,073
受取手形及び売掛金	1,073,734	443,719
商品	264	332
仕掛品	174,536	356,865
貯蔵品	844	587
その他	54,895	47,405
貸倒引当金	△860	△354
流動資産合計	4,134,214	3,342,629
固定資産		
有形固定資産		
土地	512,647	770,309
その他(純額)	194,931	309,071
有形固定資産合計	707,578	1,079,380
無形固定資産		
	16,144	17,381
投資その他の資産		
投資不動産(純額)	632,016	625,689
その他	152,227	160,067
投資その他の資産合計	784,244	785,757
固定資産合計	1,507,968	1,882,518
資産合計	5,642,182	5,225,148
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,088,941	596,099
短期借入金	300,000	1,250,000
1年内返済予定の長期借入金	277,540	27,540
未払法人税等	106,078	18,414
賞与引当金	-	55,500
その他	268,534	208,711
流動負債合計	2,041,093	2,156,265
固定負債		
長期借入金	1,147,805	527,150
退職給付引当金	299,053	295,747
役員退職慰労引当金	138,246	136,585
その他	19,760	34,597
固定負債合計	1,604,865	994,079
負債合計	3,645,958	3,150,345
純資産の部		
株主資本		
資本金	424,250	424,250
資本剰余金	285,400	285,400
利益剰余金	1,286,743	1,365,359
自己株式	△169	△206
株主資本合計	1,996,223	2,074,803
純資産合計	1,996,223	2,074,803
負債純資産合計	5,642,182	5,225,148

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	2,860,153	2,725,603
売上原価	1,997,302	1,937,259
売上総利益	862,851	788,343
販売費及び一般管理費	598,976	599,165
営業利益	263,874	189,177
営業外収益		
受取利息	89	99
受取配当金	1	41
受取賃貸料	41,176	61,481
その他	223	687
営業外収益合計	41,490	62,308
営業外費用		
支払利息	8,532	6,230
賃貸費用	15,677	24,198
その他	110	131
営業外費用合計	24,320	30,560
経常利益	281,044	220,925
特別損失		
投資有価証券評価損	16,179	-
特別損失合計	16,179	-
税引前四半期純利益	264,865	220,925
法人税、住民税及び事業税	109,548	80,146
法人税等調整額	△18,477	△9,347
法人税等合計	91,070	70,798
四半期純利益	173,794	150,127

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)及び当第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

当社の事業は、システム事業の単一セグメントですので、記載は省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。